

絹谷幸二さん:「色があると楽しいね」 吉野北小生に絵の基本指導、コツわかりやすく / 奈良

毎日新聞 2012年10月24日 地方版

吉野町平尾の町立吉野北小（中東郁雄校長、104人）で23日、文化庁事業「子ども夢・アート・アカデミー」が開かれ、日本芸術院会員の画家、絹谷幸二さん（69）が体育館で「絵がもつちから」の題で講演した。その後、絵の具と筆を持ってきた3年生以上の72人に、自分が好きな色の作り方を指導。子どもたちは日本を代表する洋画家から直接、絵の基本について教わった。

アカデミーは、文化庁が希望した学校に会員を派遣する事業。絹谷さんは奈良市出身で、壁の漆喰（しっくい）がぬれている間に顔料で描く西洋のアプレスコ画の研究で知られる。

絹谷さんは講演で児童たちにスライドで自分が描いた家族の絵を見せながら「色を無くしたら怖い顔だが、色があると楽しいね」と話しかけ、実技指導では「パレットには全部の色を少しずつ出して。いい色をどうしたら作れるかが一番大事」と説明。料理を引き合いに「汁粉は塩を少し入れるとよけい甘くなるだろう。おいしい色を作るには反対の色をちょっと入れるとよい。赤には青を」と、分かりやすく語った。

絹谷さんの特別展「絹谷幸二～豊穰（ほうじょう）なるイメージ」（毎日新聞社など主催）は12月16日まで県立美術館（奈良市）で開かれている。【栗栖健】